

PRESS RELEASE

川崎市 岡本太郎美術館  
TARO OKAMOTO MUSEUM OF ART, KAWASAKI

2019年3月吉日

# 岡本太郎と日本の伝統

2019年4月27日(土)-6月30日(日)



岡本太郎撮影 《土偶》 東大人類学教室 1956年3月23日

2019 年 3 月吉日

## 展覧会概要

1951 年 11 月、岡本太郎は東京国立博物館において縄文土器と出会い、その 4 次元的な造形力に衝撃を覚え翌年、美術雑誌『みづゑ』に「四次元との対話—縄文土器論」を発表します。これに端を発し、岡本はいわゆる「わび」「さび」とは異なる、他の東アジア地域からの文化的影響を受容する以前の、本来の日本の文化、日本人の美意識とは何かについて考察を深め、1956 年、著書『日本の伝統』として結実させています。同書のために岡本は本来の日本と考えた文化事象を、自らシャッターを切ってカメラに収めています。縄文土器・土偶、京都の古刹の中世の庭など。その写真は、岡本が撮影した写真のなかでも、記録性を超えた写真芸術の高みにまで到達しています。

本展は、『日本の伝統』をもとに、岡本による写真作品を中心として、「日本の伝統」とは何かを再考する機会となることを願って開催します。

## 開催概要

- 展覧会名： 岡本太郎と日本の伝統  
会 期： 2019 年 4 月 27 日(土)—6 月 30 日(日)  
会 場： 川崎市岡本太郎美術館  
時 間： 9：30—17：00(入館 16：30 まで)  
休 館 日： 月曜日（4 月 29 日、5 月 6 日を除く）、5 月 7 日（火）、8 日（水）  
観 覧 料： 一般：900 円（720 円）、高校・大学生・65 歳以上：700 円(560 円)  
中学生以下は無料、（ ）内は 20 名以上の団体料金  
主 催： 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
協 賛： ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

### 〈お問い合わせ〉

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐々木 広報担当：佐藤  
TEL：044-900-9898 / FAX：044-900-9966 / MAIL：pr@taromuseum.jp  
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柞形 7-1-5 生田緑地内

2019年3月吉日

## みどころ

- 岡本太郎が著書『日本の伝統』（1956）のために撮影した写真を中心とした展覧会。縄文土器、弥生式土器、京都の古刹の庭園など、今回、新たにプリントした写真を中心に約190点を展示。
- 「逆コース」と呼ばれる1950年代の日本の文化状況の最中であって、岡本の著書『日本の伝統』が果たした役割と、岡本太郎自身の作品に観られる変化について紹介します。
- 「伝統とは創造である」とした岡本太郎の精神を受け継ぐ3名の現代美術家の小沢剛氏、鈴木伸吾氏、天明屋尚氏による作品も併せて紹介します。

## 第1部 縄文の発見

1951年11月7日、東京国立博物館において縄文土器を観た岡本は、翌年、雑誌『みづゑ』2月号に「四次元との対話—縄文土器論」を発表します。それまで考古学の資料としてしか観られることのなかった縄文土器は、これ以降、鑑賞の対象として、美的な観点から語られることとなります。発表から4年後、岡本はこの記事を著書『日本の伝統』として上梓するに際して、着眼点を正確に再現するために、自らカメラを手にして、縄文土器を撮影しています。ここでは、この時に岡本が撮影した縄文土器・土偶そして弥生式土器などの写真作品を紹介します。



岡本太郎撮影 題不詳（縄文土器 富山県出土）

## 第2部 中世の庭～矛盾の技術～

岡本太郎は、京都の古刹に見られる庭園の考察を通して、日本文化に特有の自然観、すなわち「人」と「自然」との関係性の特殊性について『都名所図会』『都泉林名勝図会』を参照しつつ論じています。銀閣寺の銀沙灘や向月台、西芳寺の枯山水、龍安寺の石庭、借景などについて言及しています。ここでは、岡本が撮影した京都の庭園の写真を新たにプリントし、紹介します。



岡本太郎撮影《龍安寺 石庭》1954年12月20

## 第3部 光琳論～伝統とは創造である～

岡本太郎は、著書『日本の伝統』の刊行を通して、何を修得し、自らの造形作品に何を取り込むこととなったのでしょうか。岡本は、同書の第3章「光琳論」において、「光琳は装飾的でありながら、しかもおそろしいほど空間的なのです。芸術における空間とは、まったく空気を抜いた絶望的な真空、虚であるか、でなければぎっしりと、みじんの隙もなくつまったものである、と私は信じるのです」と述べています。ここでは、『日本の伝統』が刊行された1956年前後の岡本による造形作品を通して、岡本が考える「芸術における空間」について考察します。

#### 4章 今日の「日本の伝統」の芸術

「伝統とは創造である」とする岡本太郎の精神を受け継ぐ、3名の現代美術家の小沢剛氏、鈴木伸吾氏、天明屋尚氏による作品を紹介します。



小沢剛《岡本一太郎・三太郎 無題 (尾形光琳)》2007

#### 関連イベント

##### ■ワークショップ「ミニチュア模型の桜を作ろう」

日時：6月23日(日) 13:00～15:00

講師：鈴木伸吾（東京藝術大学講師）

会場：岡本太郎美術館・創作アトリエ

対象：どなたでも ※小学校3年生以下は保護者同伴

定員：15名（要事前予約、詳細は決定次第当館ホームページでお知らせします。）

料金：観覧料のみ

##### ■キッズ写真展

岡本太郎は豊かな視点を持った写真を数多く残しました。子どもの視線は何をとらえているのか、大人と異なる視点を楽しむ「キッズ写真展」を開催します。

応募資格：12歳以下、および保護者の方

応募点数：一人1点

応募期間：4月27日(土)～5月26日(日)

応募方法：美術館ホームページの応募フォームより申し込み

作品展示：6月8日(土)～6月30日(日)

展示場所：ギャラリースペース

※展示期間中ご来館いただいた応募者の方には、記念品を進呈致します。

その他、イベントの最新情報は当館ホームページで随時お知らせします。

<http://www.taromuseum.jp/>

# 岡本太郎と伝統の日本

4月27日(土)～6月30日(日)



①岡本太郎撮影《桂離宮》京都 1955年11月20日



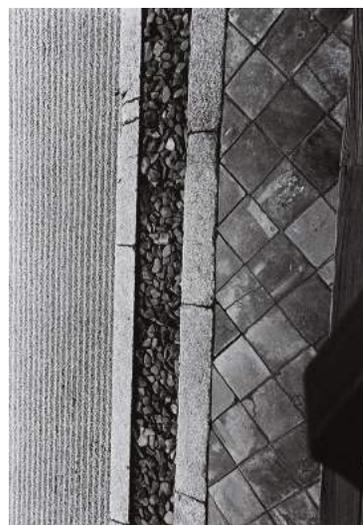
②天明屋尚《黒塗机器人形兜披風函屏風》2016年アクリル絵具、木、金箔 150x300cm  
撮影：宮島径 ©TENMYOUYA Hisashi Courtesy Mizuma Art Gallery



③岡本太郎撮影  
《龍安寺 石庭》京都 1954年12月20日



④岡本太郎撮影  
《土偶》東大人類学教室 1956年3月23日



⑤岡本太郎撮影  
《龍安寺 雨落ちの小溝》京都 1954年12月20日



⑥小沢剛《岡本三太郎「醤油画(尾形光琳)」》2007年 高橋コレクション蔵  
(右隻) 161.4×198 cm、(左隻) 161×198 cm



⑦岡本太郎撮影  
《向月台》(慈照寺銀閣) 京都 1955年4月29日